

大阪府立信太高等学校 令和6年度学校教育自己診断報告

信太高校 首席

＜ 目 的 ＞

- ① 信太高校の教育活動全般についての充実発展を図るため、教育の送り手と受け手の双方からの評価を点検・分析し、教育上の課題を明らかにすることで、今後の生徒への指導に役立つ資料とする。
- ② 毎年一定の時期に実施することで経年変化を把握し、生徒の指導に役立つ資料とする。
- ③ 「学校評価」について、教育委員会への提出書類の基礎資料とする。

＜ 実施時期 ＞

令和6年11月21日～令和7年1月16日

＜ 実施対象 ＞

生徒、保護者、教職員

＜ 情報開示 ＞

生徒、保護者、教職員、学校運営協議会、学校ウェブサイト 等を開示

＜ 回答数 ＞

	回答数	全体数	回答率（前年度比）
生徒	566 名	662 名	85.5% (-2.7)
保護者	286 名	662 名	43.2% (+0.6)
教職員	53 名	53 名	100% (±0)

※令和6年度は保護者の回答方法を WEB 上のアンケートシステムとマークシートの、いずれかでの方法で回答する形で実施。

＜ 評価結果と分析の見方 ＞

設問の大半は[A：あてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない]の四択式です。

報告書では各設問を、

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 学校運営・環境 | 2. 教育相談・人権 | 3. 学校生活 |
| 4. 学習・体験 | 5. 進路指導・生徒指導 | 6. 特別活動・その他 |

に分類し、その中で特に注目すべき点について、評価・分析・重点目標を記しています。また使用している数値は『肯定的評価＝A＋B の％』です。

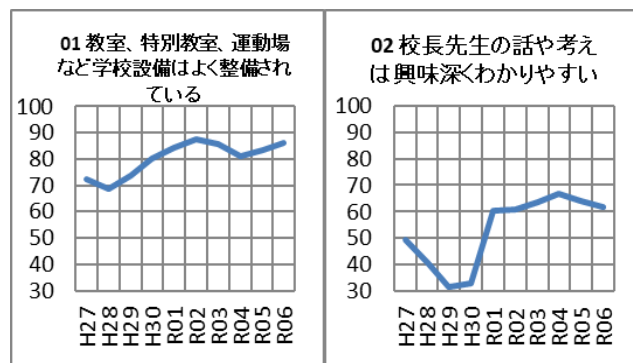
1. 学校運営・環境

<評価>

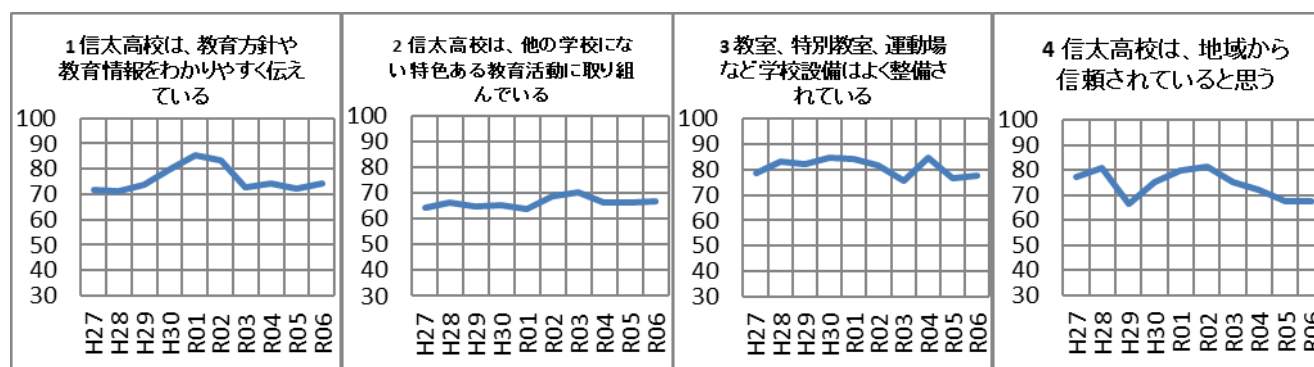
生徒・中学生のときに、信太高校の体験入学や学校説明会に何回参加しましたか

現1年生 (1回 41.6%・2回 10.6%・3回以上 2.2%) 計 54.4%

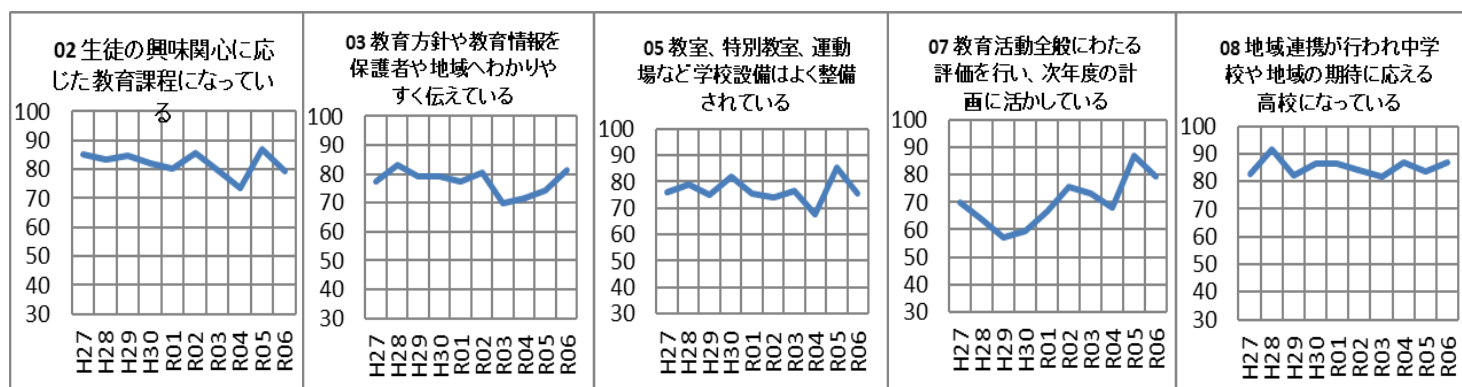
- ・教室、特別教室、運動場などの学校設備はよく整備されている 86.2%
- ・校長先生の話や考えは興味深くわかりやすい 61.7%



- 保護者・信太高校は、教育方針や教育情報をわかりやすく伝えている 74.5%
- ・信太高校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる 66.6%
 - ・教室、特別教室、運動場などの学校設備はよく整備されている 77.7%
 - ・信太高校は地域から信頼されていると思う 67.3%



- 教職員・生徒の興味関心に応じた教育課程になっている 79.2%
- ・教育方針や教育情報を保護者や地域へわかりやすく伝えている 81.2%
 - ・教室、特別教室、運動場など学校設備はよく整備されている 75.5%
 - ・教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている 79.3%
 - ・地域連携が行われ中学校や地域の期待に応える高校になっている 86.8%



<分析>

◇「学校設備について整備できている」の項目で、生徒は2年連続で増加しており、今年度は85%を超えている。1人1台端末の使用環境やトイレ、手洗い場などの自動水栓化など、生徒目線で学校設備が整っていると考えられる。その一方で、教員は昨年度から約10%減少している。電子黒板の見えにくさ、プロジェクターの使い勝手、校務用パソコンの不調、などスムーズに教育活動を進めていくためにはまだまだ設備が整っていない一面があると感じていると考えられる。

◇興味に応じた教育課程（教員）については、昨年度と比べて7.8%減少しており、過去10年間で2番目に低い数値である。3年生でも新コースでのカリキュラムが始まり、コースの設置意図と生徒の現状との乖離を感じた教員が増加したと考えられる。来年度入学する新入生には、新しいコースになるため、数年かけて結果に注意していく必要がある。教育活動の特色（保護者）については微増ではあるが3年ぶりに増加した。スポーツコースをはじめとするコース制や共生推進教室など本校独自の教育活動について、これからもよりわかりやすく広めていく必要が感じられる。

◇信太高校の地域からの信頼や期待についての項目について、保護者は4年連続で減少しており、過去10年間で2番目に低値数値である。教員は増加しており80%を超える値であるが、保護者との差は約20%である。学校の取組として地域への活動は行っているが、その内容がニーズと合致していない、または地域への活動を上手に伝えられていないなどの理由が考えられる。まずは、地域から求められている学校像のリサーチが必要であると考えられる。

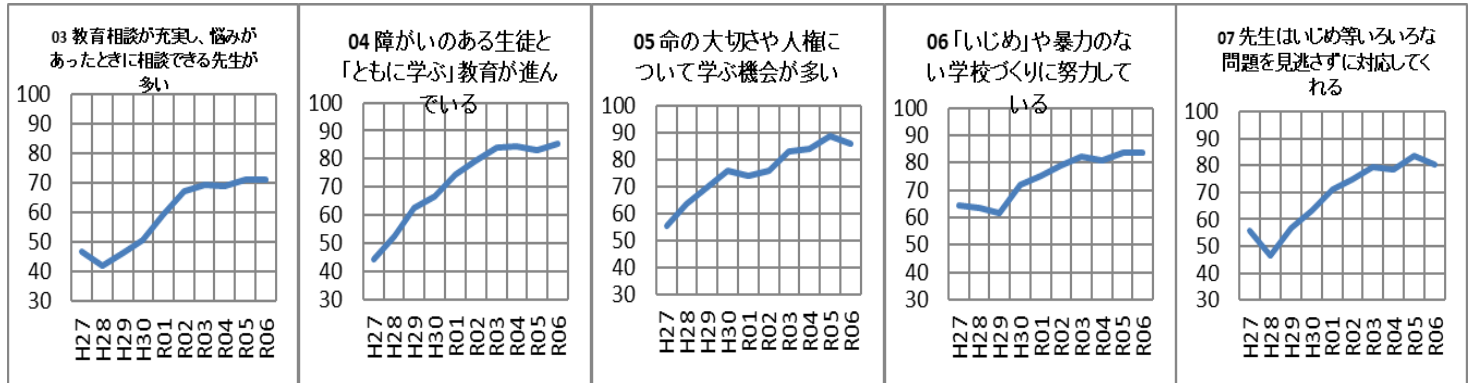
<重点目標>

教員の値については、ほとんどの項目で減少している。しかし、数値として決して低いわけではないため、現状よりもさらに高いレベルを求めている教員がいるのではないかと考えることもできる。信太高校がよりよい方向へ進むために、これからも教育活動について教職員で話し合いをすることが大切だと思う。

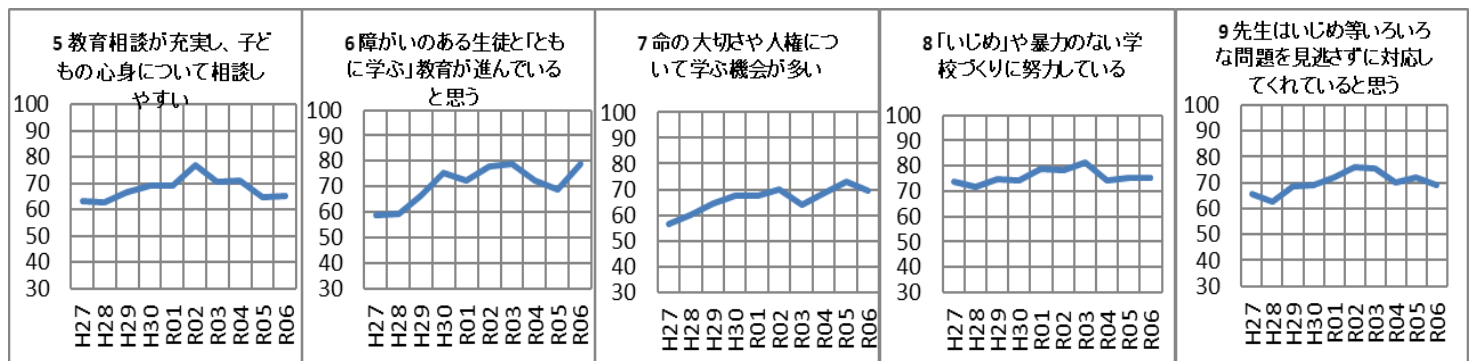
2. 教育相談・人権

<評価>

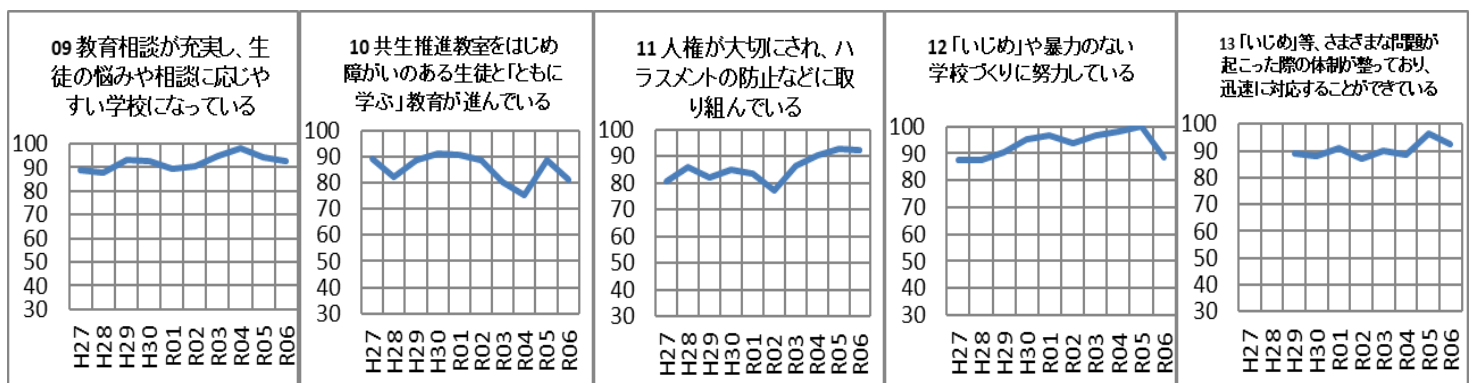
生徒・教育相談が充実し、悩みがあったときに相談できる先生が多い	71.2%
・障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいる	85.2%
・命の大切さや人権について学ぶ機会が多い	85.7%
・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している	83.9%
・先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれる	80.5%



保護者・教育相談が充実し、子どもの心身について相談しやすい	65.0%
・障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいると思う	79.0%
・命の大切さや人権について学ぶ機会が多い	69.5%
・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している	75.1%
・先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれていると思う	69.3%



教職員・教育相談が充実し、生徒の悩みや相談に応じやすい学校になっている	92.4%
・共生推進教室をはじめ障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいる	81.1%
・人権が大切にされ、ハラスメントの防止などに取り組んでいる	92.5%
・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している	88.7%
・「いじめ」等、さまざまな問題が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる	92.5%



<分析>

◇「教育相談が充実し、悩みがあったときに相談できる先生が多い」（生徒）は2年連続で増加しており、過去最高の値であった。スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)の来校や居場所カフェの実施がより充実し、生徒のニーズを満たしていることがわかる。また、SC・SSWに繋げるきっかけとなる担任の先生や教育支援委員会の先生が中心となり相談しやすい環境を作っていることがわかる。

◇「障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいると思う」の項目では、生徒・保護者ともに増加しており、過去10年間で最高を更新している。保護者については約10%も増加している。普段の学校生活の中で、授業だけでなく、学校行事や部活動など多くの場面で、ともに学ぶ機会が増えていることが理由の1つだと考えられる。

<重点目標>

教育支援・教育相談体制については、生徒に寄り添った支援が行われおり、これからも安全・安心な学校作りに努めていくことが大切である。教育相談では、保護者が相談しやすい体制を整えていく必要はあるが、全体的な方向性はそのまま、さらに相談しやすい雰囲気づくりなどを意識していく。

保護者と生徒の数値を比べると「いじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれる」の項目では約10%、「プライバシーが守られている」の項目では約15%保護者の方が低い。保護者に学校での生徒への対応がうまく伝わっていないのではないかと考えられるため、保護者への連絡を丁寧に行っていく必要があると考えられる。

3. 学校生活

<評価>

生徒・学校に行くのが楽しい

69.2%

・学校生活は充実していると思う

75.4%

・学校行事（体育大会、文化祭、修学旅行、合唱コンクールなど）は楽しく行えるように工夫されている

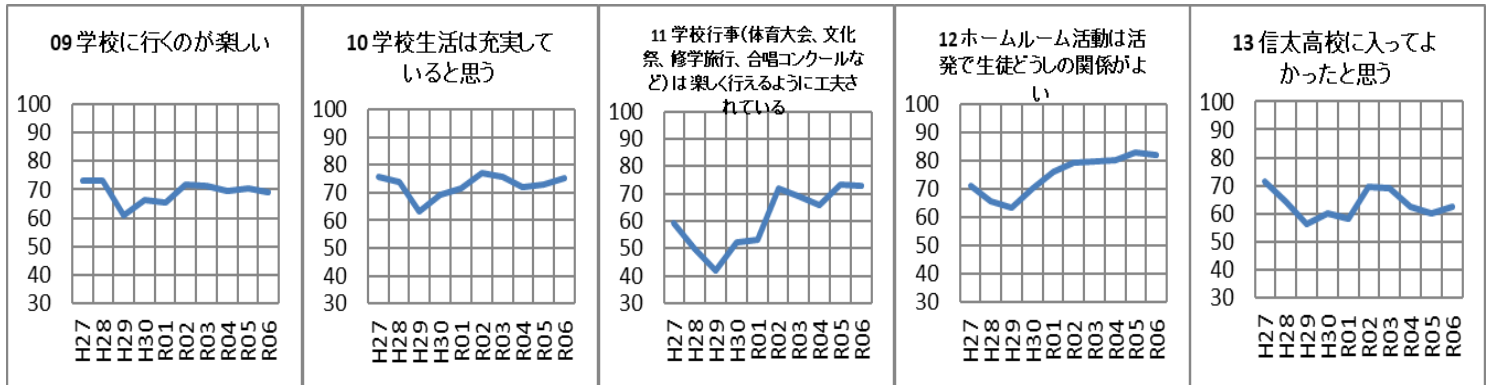
73.0%

・ホームルーム活動は活発で生徒どうしの関係がよい

82.2%

・信太高校に入ってよかったと思う

62.3%



保護者・子どもは学校に行くのを楽しみにしている

68.9%

・子どもの学校生活は充実していると思う

72.1%

・信太高校の学校行事は楽しく行えるように工夫されていると思う

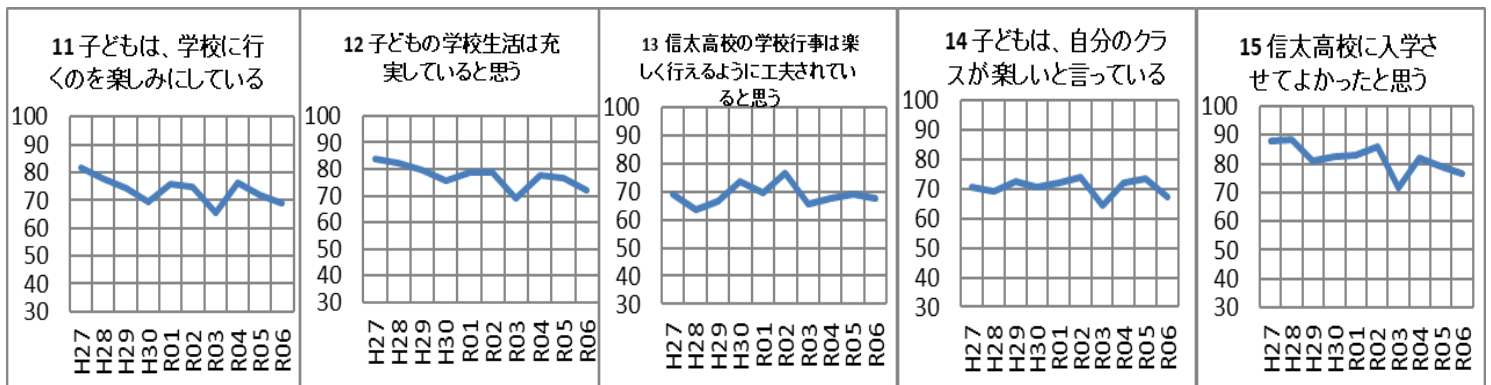
67.5%

・子どもは自分のクラスが楽しいと言っている

67.1%

・信太高校に入学させてよかったと思う

76.6%

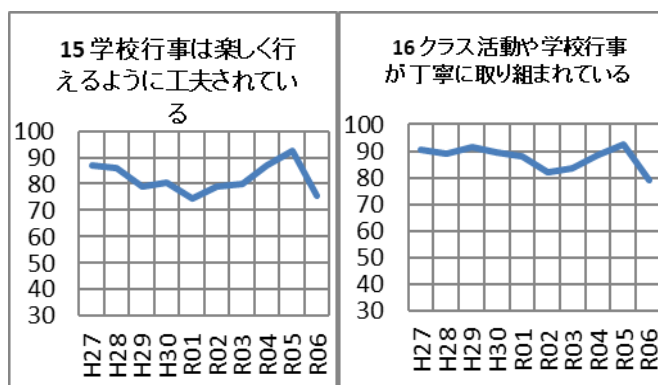


教職員・学校行事は楽しく行えるように工夫されている

75.4%

・クラス活動や学校行事が丁寧に取り組まれている

79.2%



<分析>

◇「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」の項目では、生徒・保護者・教員すべてにおいて減少した。また、生徒では「学校生活は充実している」は2年連続で増加、「信太高校に入ってよかった」の項目は4年ぶりに増加している。学校行事をはじめとして授業、ホームルーム活動、部活動など様々な角度から生徒が充実した学校生活をおくっている様子を伺うことができる。「信太高校に入ってよかった」の項目は学年が上がるにつれて上昇している。

<重点目標>

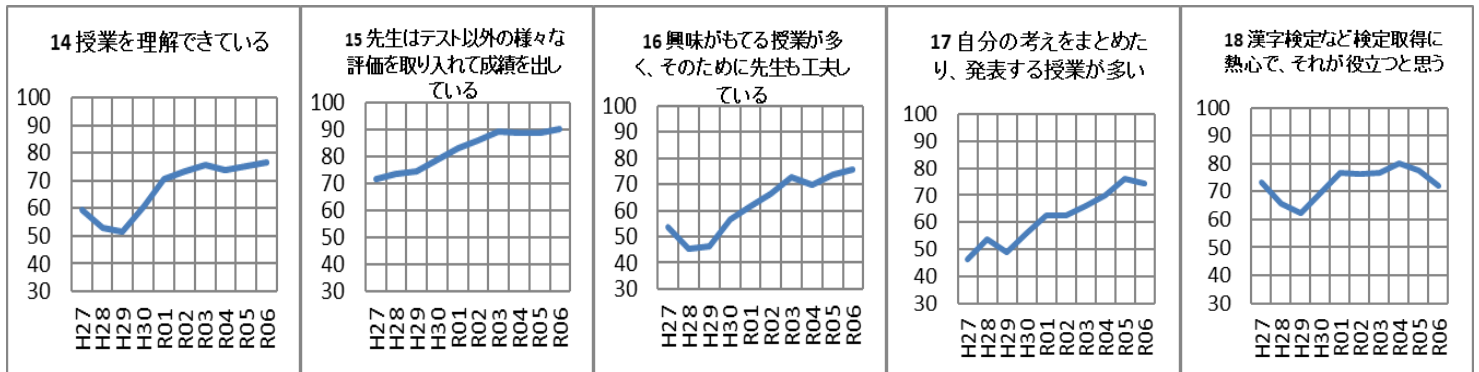
今後も変わらず、生徒が楽しく安心して学べる居場所をつくることと充実した学校生活を送ることができるようにしていくことが重要である。

「信太高校に入ってよかったと思う」(生徒)「信太高校に入学させてよかったと思う」(保護者)では、生徒と保護者との差が14.3%ある。昨年度より約5%縮まっているが、それでも生徒と保護者の意識の違いが感じられる。生徒・保護者それぞれが求めている学校像のリサーチが必要だと考えられる。

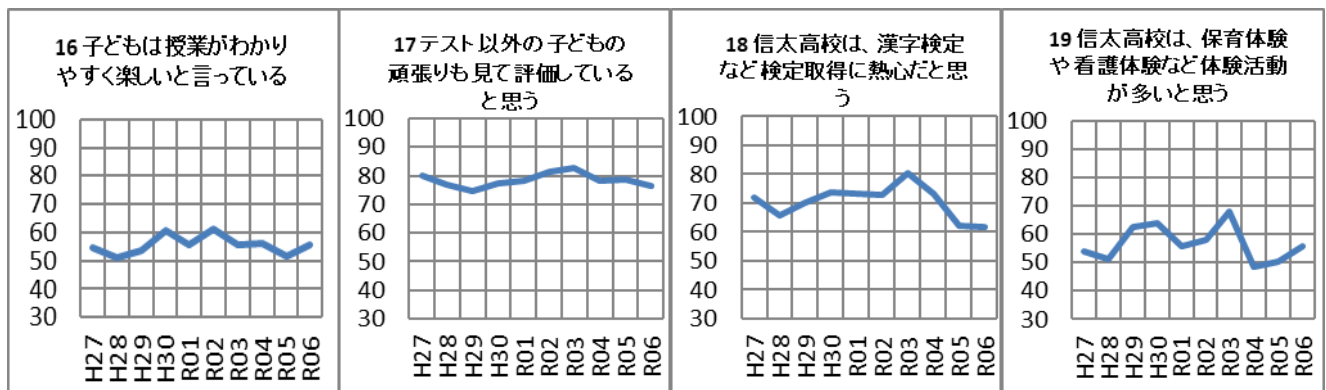
4. 学習・体験

<評価>

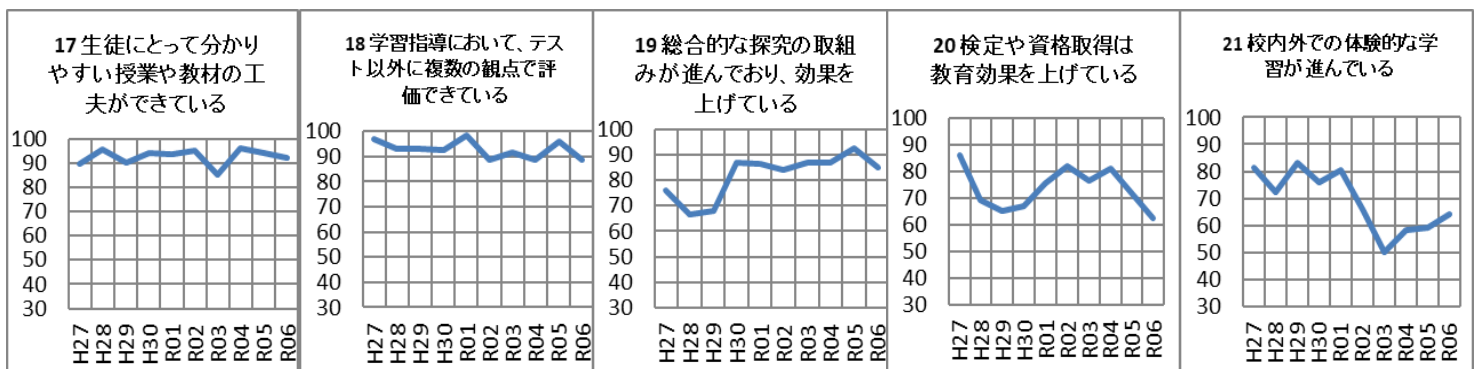
生徒・授業を理解できている	(3年 79.0% 2年 74.8% 1年 76.2%)	全学年	76.5%
・先生はテスト以外の様々な評価を取り入れて成績を出している			90.1%
・興味が持てる授業が多く、そのために先生も工夫している			75.6%
・自分の考えをまとめたり、発表する授業が多い			74.2%
・漢字検定など検定取得に熱心で、それが役立つと思う			72.2%



保護者・子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている	55.8%
・テスト以外の子どもの頑張りも見えて評価していると思う	76.6%
・信太高校は漢字検定など検定取得に熱心だと思う	61.7%
・信太高校は保育体験や看護体験など体験活動が多いと思う	55.6%



教職員・生徒にとってわかりやすい授業や教材の工夫ができています	92.4%
・学習指導において、テスト以外に複数の観点で評価できている	88.6%
・総合的な探究の取組みが進んでおり、効果を上げている	84.9%
・検定や資格取得は教育効果を上げている	62.3%
・校内外での体験的な学習が進んでいる	64.1%



<分析>

◇全生徒の回答として、半分以上の項目で昨年度よりも肯定的な意見が増加しており、5つの項目で過去最高の数値となった。「先生はテスト以外の様々な評価を取り入れて成績を出している」の項目では、90.1%で過去最高となっている。アンケートを始めた頃（H27）からの数値を見ると、71.5、73.6、74.5・・・となっており、当初から高い数値だったにも関わらず、長い期間をかけて、さらに工夫がされてきた事がわかる。また、「授業を理解できている」という項目も、当初は 59.5%だったので、長い期間をかけて高い値へと変化している。

◇教員の回答としては、全体的に肯定的な意見が減少している。しかし、昨年度、値が高止まりをしていたことを考えると、妥当な数値だと考えられる。また、「校内外での体験的な学習が進んでいる」の項目については、昨年度よりは増えているものの、R2 年度に低い値になって以降、R1 年度以前の水準には戻っていない。

◇検定試験への学校の取り組みについては、教員・生徒・保護者ともに、減少となった。特に、保護者については、過去最低の値となった。

◇「授業を理解できている」という項目で、生徒で過去最高の値となり、「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」の項目の保護者の回答が、昨年より増加した。

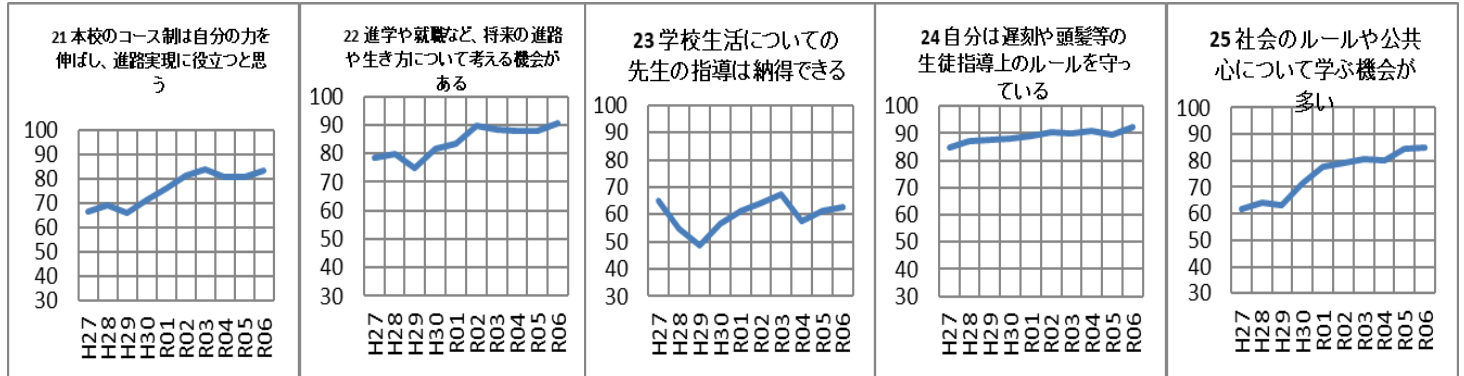
<重点目標>

教員の回答が全体的に減少したが、ほとんどの項目が 80%という高い値ではあるので、このままキープできるようにしていきたい。また、体験学習については、コロナ禍の影響によって実施が難しかったことが影響していると考えられるが、今後、増加していくことを、生徒や保護者からも期待されていることがうかがえる。

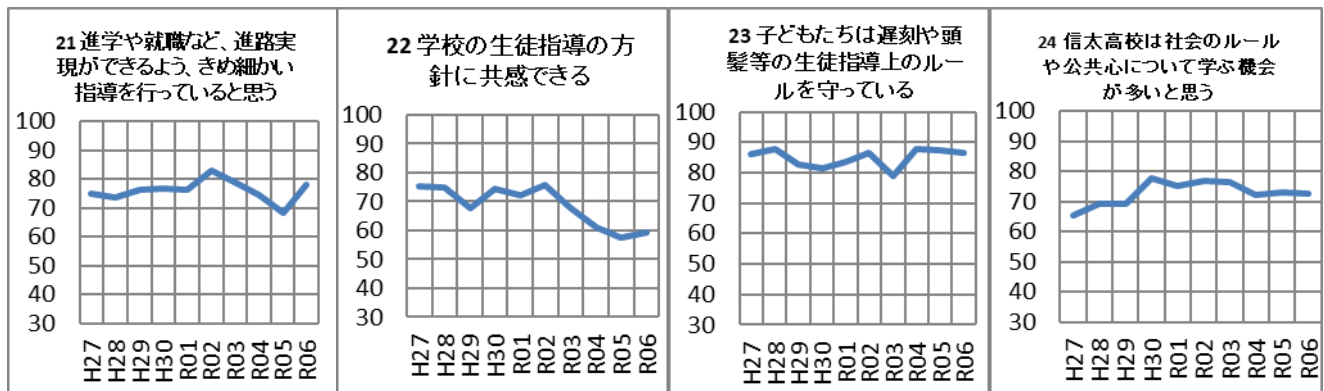
5. 進路指導・生徒指導

<評価>

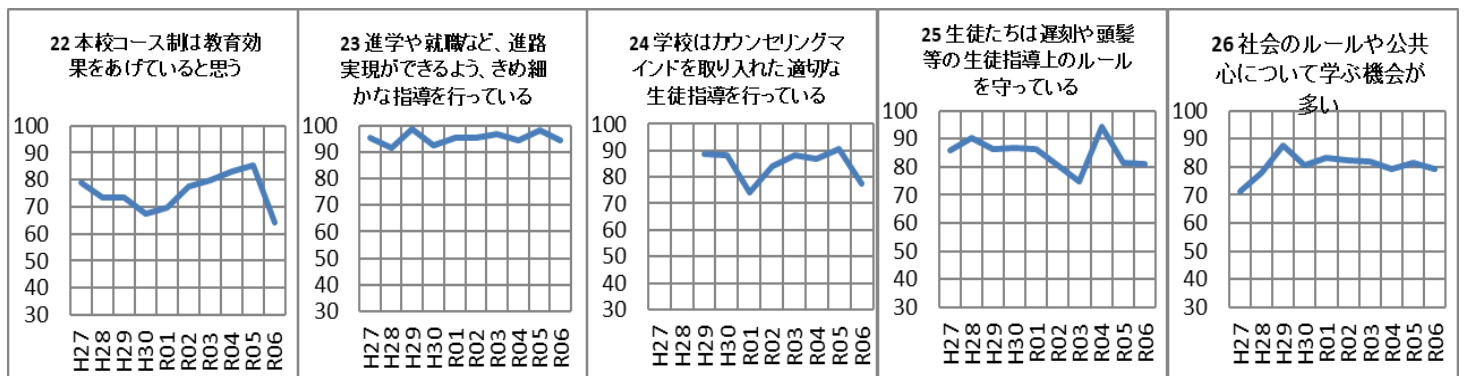
生徒・本校のコース制は自分の力を伸ばし、進路実現に役立つと思う	83.5%
・進学や就職など、将来の進路や生き方について考える機会がある	90.7%
・学校生活についての先生の指導は納得できる	62.5%
・自分は遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている	92.4%
・社会のルールや公共心について学ぶ機会が多い	85.0%



保護者・進学や就職など、進路実現ができるよう、きめ細かい指導を行っていると思う	78.1%
・学校の生徒指導の方針に共感できる	59.1%
・子どもたちは、遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている	86.4%
・学校は社会のルールや公共心について学ぶ機会が多いと思う	72.7%



教職員・本校コース制は教育効果をあげていると思う	64.2%
・進学や就職など、進路実現ができるよう、きめ細かな指導を行っている	94.4%
・学校はカウンセリングマインドを取り入れた適切な生徒指導を行っている	77.3%
・生徒たちは、遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている	81.1%
・社会のルールや公共心について学ぶ機会が多い	79.3%



【進路指導分野】

<分析>

◇進路分野においては学校全体で取り組んでいることもあり、生徒・教員とも数値としては 80%を超える数値となっている。教員の「進路実現ができるよう、きめ細やかな指導をおこなっている」の項目では 94.4%と非常に高い数値となっているのに対して、保護者の「進学や就職など、進路実現ができるよう、きめ細かい指導を行っていると思う」(保護者)の項目では 78.1%となっており、差が 16.3%ある。しかし、保護者は昨年同じ項目で、68.1%という、過去最低の値だったので、今年度は 10%増加し、差を縮めることができた。

<重点目標>

進路行事や校内外での体験行事を充実させることで、進路について考える機会を充実させ、生徒が進路実現に向けて、どのような取り組みをしているのかを、保護者にも伝わる形で発信していく必要がある。

【生徒指導分野】

<分析>

- ◇「学校の生徒指導の方針に共感できる」の保護者の回答において、アンケートを始めた頃（H27）は 75.1%で、その後も大きく数字が変わることがなかったのだが、R2 に最高値の 75.8%になって以降、減少し続けており、R6 では 59.1%となり、去年に引き続き、低い数値となった。
- ◇「学校はカウンセリングマインドを取り入れた適切な生徒指導を行っている」の項目（教員）において昨年 90.8%と、過去最高の数値だったのに対し、今年度は 77.3%という過去最低の数値となった。「学校生活についての先生の指導は納得できる」の項目（生徒）は 62.5%となっており、昨年より少し増加している。

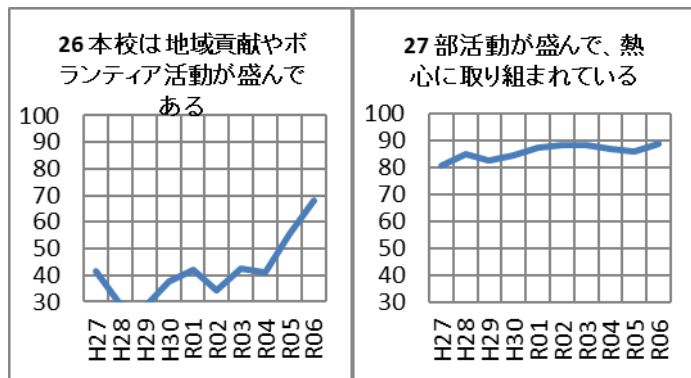
<重点目標>

納得していないがルールは守っているという生徒が一定数いる。ルールを守っているという項目で肯定的な意見が非常に高いため、その数値の維持を目指す。そして、生徒指導を行う際にも、しっかりと双方が納得できるように説明を行うことが必要となってくる。また「社会のルールや公共心について学ぶ機会が多い」については生徒・保護者・教員すべてにおいて 70%以上の肯定的評価を得ている。生徒指導は社会に出た時の基礎となる部分であるという考えを教員・生徒・保護者がしっかりと共有し、80%以上の高水準を目指していきたい。

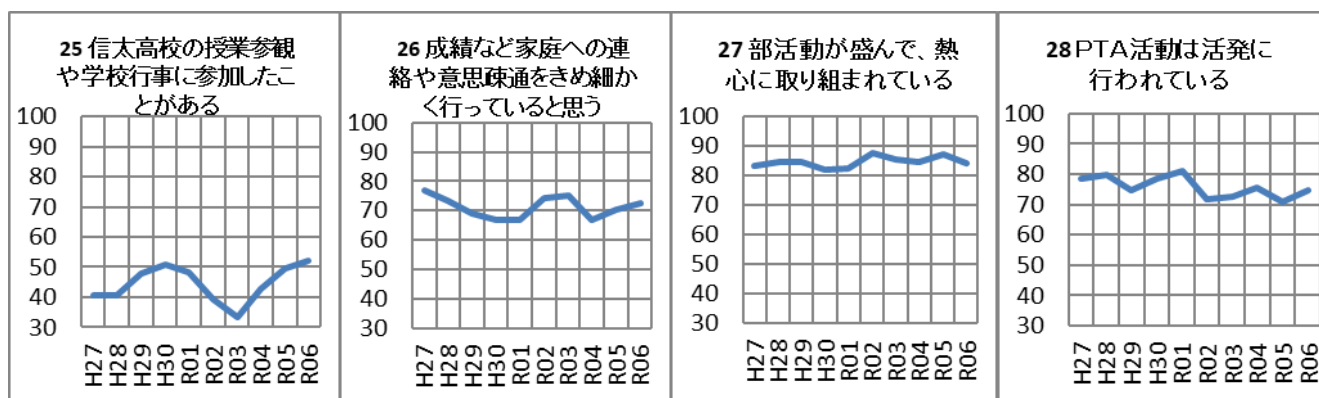
6. 特別活動・その他

<評価>

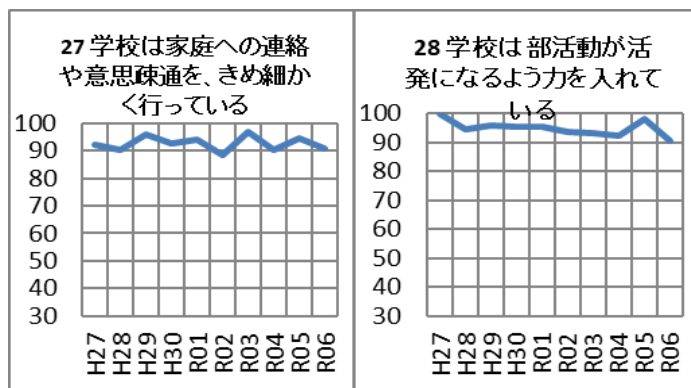
- 生徒・本校は地域貢献やボランティア活動が盛んである 68.3%
- ・部活動が盛んで、熱心に取り組まれている 88.7%
 - ・部活動に入っていますか (運動部 28.8% 文化部 15.7% 両方 0.7%) 全体 45.2%



- 保護者・信太高校の授業参観や学校行事に参加したことがある 52.1%
- ・成績など家庭へ連絡や意思疎通をきめ細かく行っていると思う 72.5%
 - ・部活動が盛んで熱心に取り組まれている 84.0%
 - ・PTA 活動は活発に行われている 74.6%



- 教職員・学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている 90.6%
- ・学校は部活動が活発になるよう力を入れている 90.6%



<分析>

- ◇部活動については、保護者と教員が微減しているが、いずれも 80%以上の高い数値である。生徒は 88.7%と過去最高の値となっている。
- ◇「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っていると思う」の項目では保護者が増加している。教員は減少しているものの、90.6%の高い値となっている。教員が 90.6%に対して保護者は 72.5%となり、両者の開きが昨年度 24.0%、今年度 18.1%となり、減少している。
- ◇保護者の「授業参観や学校行事に参加したことがある」の項目は増加しており、新型コロナウイルスの影響で中止や規模が縮小されていた活動が、平常に戻りつつあり、その影響だと考えられる。

<重点目標>

部活動の加入率の増加を目指し、より一層部活動の活性化を図る。

国際交流やボランティア活動など、生徒が中心となって、達成感や成長を実感できる取り組みを進めていく必要がある。

保護者への情報提供については、ホームページやブログ、さくら連絡網などを活用し、保護者・教員ともに連絡を取りやすい手段を考えていく必要がある。また、参加しやすい公開授業や学校行事のための、取り組みの工夫をしていきたい。